

昼下がりの市民図書館にて

あれだけ見事に咲いた市民図書館裏の桜葉が影を差す午後、今日は完全休日の日曜日、久しぶりに訪れてみた。エントランスホールに入ると、パネル展のボードの横から女子高生の話し声、3人も実に楽しそう。新刊本コーナーと市内で発行される印刷物を斜め読みするのがまずルーティン。折々に雑誌コーナーに行くが、表紙を眺め1冊を手に取り、ソファにて、これもまた斜め読みをする。経済、科学系が物足りない、市の財政問題では説明しきれないものを感じている。今日は中間試験でもあるのか中学生で席はいっぱい、環境が向学心を呼び起こすのだろう。50年前と変わっていないのは不思議だ。▼カウンターでお孫さんたちと手際よく絵本の登録をする高齢のご婦人。私もよく陥ることだが、読書は良質な睡眠導入方法でもある。夢のまた夢を駆け巡る世界は心地のいいものだ。「図書館のなかにまちをつくるう」をコンセプトに多くの市民の思いが注がれ、館内はあまり規制がない。むしろ、智の源みちのねとこだわることなく、人々が交差する市民の居場所でもある。図書館でひねもすのたりのたり過とくごすのも、石狩ならではのこと。小木先生からの寄贈絵画、目線に入らない違和感は今もぬぐいきれない。今日もまた徳川実紀じつぎを読まず、その上売店の中華饅頭の魅力にまたしても負けた。(市長)

広告